

平成21年度 第4回 幹事会議事録

(社) 日本地すべり学会

日 時：平成22年3月5日(金) 11時00分～14時40分

場 所：学術総合センター(特別会議室 102・103)

出席者：

区 分		氏 名	出欠	区 分		氏 名	出欠	
三役等	会長	丸井英明	○	支部長	北海道支部	前田寛之	○	
	副会長	吉松弘行	○		東北支部	事業計画部長兼任		
	副会長	広嶋孝也	○		新潟支部	川邊洋	○	
	専務理事	綱木亮介	○		関東支部	鵜飼恵三	○	
	前会長	山岸宏光			中部支部	土屋智		
委員	表彰委員長	古谷尊彦			関西支部	藤村尚		
	教育問題委員長	岩尾雄四郎	○		九州支部	宜保清一	○	
各部部长	総務部部长	小野慎吾	○		支部長代行	北海道支部	米田哲朗	
	編集出版部部长	阿部真郎	○			東北支部	千葉則行	
	事業計画部部长	檜垣大助				新潟支部	稲葉一成	
	国際部部长	宮城豊彦	○	関東支部		若井明彦		
研究調査部部长	八木浩司	○	中部支部	小野和行				
部長代行	総務部	松尾新二郎		関西支部		末峰章	○	
	編集出版部	新屋浩明		九州支部		福田順二		
	事業計画部	中村直登	○	財政委員長		総務部長代行兼任		
	国際部	上野雄一		広報委員長		太田英将		
	研究調査部	榎田充哉		庶務委員長		山崎勉		
					出席者名	15		

○開会

- ・会長挨拶
- ・前回議事録報告・承認

I. 議題

I-1. 次年度事業の運営について

(1)平成22年度事業計画案について(資料-2)

小野総務部長より、各部・支部から提出された平成22年度事業計画案が説明された。

大隈事務局長より、公益法人認定申請のスケジュールとして、3月末までに申請を行い認定までには約5ヶ月かかるとの見通しが報告された。

また、鵜飼地震地すべり特別プロジェクト委員長より、平成22年度の詳細な事業計画については、次回の理事会で報告することとし、現時点では最終報告書の目次構成が決定されたとの報告がなされた。

討議の結果、平成22年度事業計画案が承認された。

(2)平成22年度予算案について(資料-3)

小野総務部長より、事業計画案に基づく平成22年度予算案が説明された。

また、これまでは支部収支に関して小科目までの詳細を明示していなかったが、公益法人化に当たっては、支部の収支も合わせた連結表示が必要となることから、小科目リストを事務局から送付するので、支部

で整理して欲しいとの要請がなされた。

#### <討議>

- ・支部別の収支が分かるような様式を作成する必要がある。
- ・支部も小科目まで提出するのであれば、会計担当者会議を開催して、統一を図って欲しい。
- ・研究発表会の事業費が多くなっていることから、事業費全体では会員減少の影響が表れていない収支計画になっている。
- ・予算案では単年度黒字予算となっているが、収入面で会員数の減少傾向など不透明な要因があることから、単年度では赤字となるが予算執行に柔軟性を持たすため予算案の予備費を 10 万円から 50 万円計上することが提案された。

討議の結果、平成 22 年度予算案は、予備費 50 万円計上する修正案で、承認された。

### I-2. 平成 22・23 年度役員選挙について(資料-4)

#### (1) 役員候補者推薦について

丸井会長より、役員候補推薦委員会での検討経緯が説明された。

前回幹事会で示された今後の理事選定の理念に基づき、委員会で協議した結果、既に会員各位に投票用紙が配信されたように、特例法人及び新公益法人対応時の各役員候補者の推薦を受けたことが説明された。

#### (2) 役員選挙結果について

大隈事務局長より、3 月 3 日に選挙管理委員会が開票が行われた経緯と、候補者全員が信任されたことが報告された。

平成 22・23 年度役員選挙結果について承認された。

### I-3. 平成22年度研究発表会について(資料-6)

中村事業計画部長代行より、平成 22 年度研究発表会沖縄大会に関する進捗状況が説明された。

- ・今回は平成 20 年度と同様な形式となることから、参加費については従来通りの金額で設定した。
- ・事前申し込みの割引は、参加費徴収の効率化を図るため、参加費を前納した場合にのみ適用することとした。

### I-4. 平成23年度研究発表会開催地について

丸井会長より、平成 23 年度研究発表会は担当の東ブロックの内、中部支部が担当して静岡県で開催することが報告された。中部支部の土屋支部長から連絡を受けていることが説明された。

平成 23 年度研究発表会開催地は、静岡県で承認された。

## I-5. その他

### (1) 収支計算書に対する注記について(資料-10)

大隈事務局長より、文科省から指摘された注記に関する対応方針が説明された。  
次期総会で修正を決議することが承認された。

### (2) 地震地すべりプロジェクトについて(資料-13)

鶴飼委員長より、プロジェクトの進捗状況及び今後の活動予定が説明された。

### (3) 学会賞候補選定について

丸井会長より、今年度は研究発表会開催時期が早まったので、推薦期日を前倒して候補者選定を行っている旨の説明がなされた。

まだ選考作業中なので、積極的に推薦をお願いしたい旨が要請された。

### (4) 中国甘肅省研究者との共同研究について(資料-8,9)

吉松副会長より、1月28日に行われた中国甘肅省訪日団との交流結果が報告された。

また、綱木専務理事より、共同研究に関する協定書の内容について説明が行われ、4月(4/12-4/22)の訪中時に調印することで了承された。

## II. 報告

### II-1. 企画委員会報告

#### (1) 出版事業企画委員会

Landslide in Japan の編集進捗状況について報告がなされた。

### II-2. 各部、支部からの報告(各部長、支部長)

各部長、支部長より、活動報告・活動予定等が報告された。

#### (1) 総務部(資料-5・別紙)

平成22年度総会に関する委任状を提出するように、関係各位への働きかけが要請された。

#### (2) 事業計画部(資料-15)

研究発表会沖縄大会については、遠隔地でもありTV会議システムを導入して、準備作業を行っていることが報告された。また、研究発表会の参加申込は、4月23日に締め切る予定であり、積極的な参加が要請された。

平成22年度のシンポジウムに関しては、話題提供が7編集まったことが報告された。

#### (3) 研究調査部(資料-16)

地震地すべりプロジェクトに注力していることが報告された。

#### (4) 編集出版部(資料-17)

最近の学会誌について以下の報告がなされた。

- ・学会誌への投稿受付から掲載まで、概ね 200 日程度となっている。
- ・採択率は、67%となっている。
- ・今後、電子投稿へと切り替えていく予定である。
- ・投稿内容が変化してきており、現場報告から地震・シミュレーションなど題材が多様化してきている。

(5) 国際部(資料-10)

次期の活動計画については、新執行部にゆだねることが報告された。

(6) 北海道支部(資料-19)

4/23 に、平成 22 年度支部総会・研究発表会を開催する。

同日は、本部の理事会と重なっている。昨年度も重なっており、日程に留意して欲しい旨が要望された。

(7) 東北支部(資料-20)

地震地すべりプロジェクトと共同で、コア観察会を予定しており、参加者を募っていることが報告された。

(8) 新潟支部(資料-21)

研究発表会の収支が確定し、実行委員会は解散した旨が報告された。

また、5/21 に開催する支部シンポジウムでは、「気象変動と斜面災害」をテーマに気象関係の大学・気象台などから発表者を募っていく計画としている旨が報告された。

(9) 関東支部(資料-22)

6/11 に、「新技術を用いた空(宇宙)からの地すべり地形把握と解析」をテーマとした、シンポジウムを開催することが報告された。

(10) 中部支部(資料-23)

活動報告書により活動報告がなされた(支部長欠席)。

(11) 関西支部(資料-24)

6/25 に、「政権交代と地すべり対策」をテーマとした、シンポジウムを開催することが報告された。

(11) 関西支部(資料-25)

支部の研究発表会は、本部研究発表会沖縄大会と同時開催とし、参加者を確保する予定である旨が報告された。

## II-3. その他

(1) 会員について

大隈事務局長から、会員変動状況が以下の通り報告された。

- ・賛助会員の減少が続いている。
- ・県会員の減少も著しい。

これに対して、年度で増減が分かるような表で整理して欲しいとの要望が出された。

## (2) ICL 報告

丸井会長から、ICL 報告が以下の通りなされた。

- ・大会で年間の活動報告を行った結果、WCE の認定を受けた。
- ・地震地すべりに関する研究を、重要研究テーマとして応募した。
- ・2011 年にローマで第2回世界斜面防災シンポジウムが開催予定である。

## (3) 国際会議

ネパールから来日しているダンゴル氏 の特別参加を許可し、国際会議について話し合われた。

- ・2008 年仙台開催時に、次回は 2011 年開催で検討していくことが、合意されている。
  - ・ネパールでの開催を計画してはどうか。
  - ・ネパールとしては、開催するのであれば日本地すべり学会と共同して計画したい。
- 討議の結果、次期執行部への引継ぎ事項とし、検討を継続していくこととなった。

## (4) その他

参加者から以下の意見が出された。

- ・会員獲得に向けた方策を検討する部署を決めて実施して欲しい。
  - ・研究発表会の機器展示参加費が高いとの評判がある。これに関しては、他の学会との比較では、それほど高くはないとの意見もあった。
  - ・研究発表会の機器展示を、新技術開発・採用に向けた取組をおこなう場とすべきではないか。
- これらは、今後も議論していくこととなった。

閉会

以 上

( 記録・文責 : 小野 )